

## 「ウィン・ウインの絵カード」の活用

神奈川県川崎市  
 一般社団法人そよ風の手紙  
 児童発達支援 すまいるスペースそよ風の手紙  
 管理者 新保 浩

### 1 はじめに

私ども「すまいるスペースそよ風の手紙」は、川崎市幸区の夢見ヶ崎動物公園の緑豊かな中で児童発達支援事業所を本年4月から開所しました。放課後等デイサービスも行う多機能型事業所です。その母体となる法人「一般社団法人そよ風の手紙」は、“高齢者、児童及び障がい児・者とそのご家族が希望や生きがいを失うことなく、おおらかな人生を送ることができるよう心身のサポートを行い、心の充実と笑顔の毎日を送っていただくこと”を目的とし、児童通所施設の開所一年前の2013年4月2日（世界自閉症啓発デー）に創業しました。開所までの準備の一年間は、絵カードのお店・ママサポート・パステルアート教室を通して、発達に遅れのある子どもたちへの直接的な活動やその親御さんの心のケアを中心に事業を行ってまいりました。その中から、今回は現在弊事業所をご利用いただいている子どもたちの支援に繋がる「絵カード」に関する事例を取り上げさせていただきます。「絵カード」と言っても、ここで取り上げさせていただくのは単なるカードではなく、「ウィン・ウインの絵カード」です。どのような取り組みを通して、ウィン・ウインになったのか、以下にご紹介いたします。



先の見通しを立てることができる、スケジュール絵カード

## 2 事例や取組の紹介

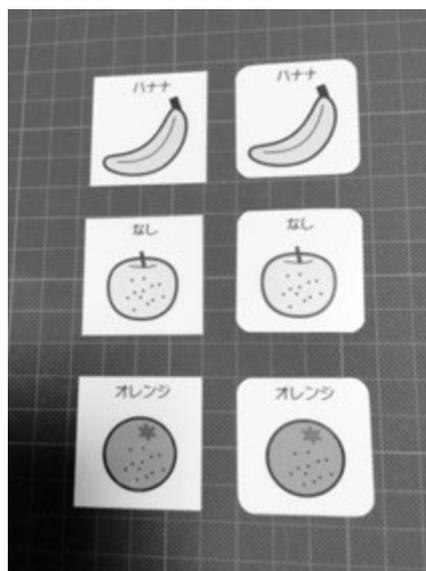
児童発達支援事業では、おもに発達に遅れのある子どもたちに対し、個別や集団における療育を中心としたサポートを行っております。子どもたちの中には、自分の思いをうまく伝えることができないために、コミュニケーションがとれずに、苦しんでいる方がたくさんおられます。また、この先に何が起こるか予測できない不安から、パニックや痙攣を起こしてしまう方もおられます。そこで大変役立つのが、コミュニケーションの手助けや、スケジュールを視覚的に伝えることができるツールの「絵カード」なのです。弊事業所では、この「絵カード」を視覚優位の子どもたちが安心できるスケジュールのツールとして、また個別療育におけるコミュニケーションのツールやマッチングや分類等の教材として活用しております。

今回ご紹介したいのは、これらの絵カードの使用方法ではなく、この使用する絵カードを障がいを持つ方々が作成の段階から関わっていただく「ウィン・ウィンの絵カード」のシステムです。“はじめに”でも書かせていただきましたが、もともと私どもには、絵カードのお店という絵カードの作成販売部門がありました。その絵カード一枚一枚にはラミネート加工がされているのですが、四角形にカットした際、安全のためにカードの四隅の角を丸める作業に苦勞しておりました。この作業には根気と集中力が必要です。その中で考え出したのが、地域の通所施設等でこの絵カード作成に関わっていただき、作業費をお支払いすることで、一つの仕事を生み出すことができるというものでした。障がいを持つ方々の中には、この集中力を活かされて就労されておられる方も多いことを考えると、地域の通所施設においてもこの様な細かい手作業を得意とされる方がおられると思ったからです。そして、そのカード自体がさらに障がいを持つ方のコミュニケーションの手助けとなることで、ただの絵カードではなくなります。つまり、作成作業に関わる方にとっても、使用される方にとっても、そして作成に苦勞していた我々にとっても、三者にとってウィン・ウィンな絵カードとなるのです。現在はこの作成作業を、地域の通所施設である社会福祉法人長尾福祉会の「セルフきたかせ」様や社会福祉法人県央福祉会の「御幸日中活動センター」様にお手伝いいただいております。

単なる物としての「絵カード」ではなく、作成段階から地域の障がいのある方々が関わられた「ウィン・ウィンの絵カード」を活用することにより、現在「すまいるスペースそよ風の手紙」のご利用者の子どもたちは、笑顔いっぱいの時間を過ごされております。



絵カードの四隅の角を丸めるカット作業



カット前（左）とカット後（右）

### 3 考察

四隅の角を丸めていただいた絵カードは、その納品の際にも、職員の方とご一緒に障がいのある方が歩いて届けに来られます。その姿を見た時、作成だけではなく、納品のお仕事にも一役買わせていただいていることに気がきました。一つの絵カード作成システムの変更が、このように絵カードそのものをウィン・ウィンの絵カードへ変えていったと思うと、大変嬉しく思います。また、そのカードを使い児童発達支援をご利用中の子ども達が、少しずつ成長してゆく姿を見て、単なる絵カードでなく、心の通った絵カードになっていることに気付かされました。今回は、絵カードの一例でしかありませんが、自分の身近なものの中にも、システムを少し変更するだけで、多くの方々に笑顔にできるものもあるのではないかと感じています。

### 4 おわりに

私どもが運営しているのは児童通所施設です。施設だから内部で完結するという、ある意味枠にとらわれた考え方では、恐らく今回のシステムは思いつかなかったのではないのでしょうか。私自身、25年間のサラリーマン生活にピリオドを打ち法人を立ち上げました。いわゆる外部から福祉の世界に飛び込んだ人間ですが、その中に入り感じるのは、今の福祉の業界は全般的に業界内で枠を作る閉鎖的傾向にあるのではないかとということです。これからも弊事業所は、少しだけ違った観点から、独自性を出しながら福祉の世界を進んでゆく所存です。



児童発達支援の個別療育の風景